

部局横断的組織による 新たな行政課題への取組み

小田原市

○ 取組の概要

豊かな自然環境や長い歴史に培われた伝統文化など、市の恵まれた資産に新しい価値を融合させ新たな魅力を高めるための施策の実現に取り組むため、市長を本部長とするおだわらルネッサンス推進本部を開設。

○ 小田原市の概要



小田原市の概要

市役所所在地

●神奈川県小田原市荻窪300番地

人口

●197,644人

※H17.3.31現在（住民基本台帳人口）

○ 取組について

1. 取組の背景

平成 16 年 5 月の市長選挙において、現市長がマニフェストという形で政策実現宣言を行った。また、市民社会が成熟していく中で、部局をまたがるようなニーズが増加し、これらの課題に適切に対応していくためには従来の組織を超えた部門横断的な体制づくりが必要になっていた。

そのため、マニフェストの着実な推進と包括的に仕事を進めていく組織づくりの試みとして平成 16 年 9 月に「おだわらルネッサンス推進本部」を設置した。



2. 取組の具体的内容

(1) プロジェクトの設置

おだわらルネッサンスを「活力あふれ、人にやさしく、まちなみが美しい小田原の夢をかたちにする」と定義し、これを実現するためのプロジェクトのほか、マニフェストに位置付けられた事業のうち、象徴的な事業についてプロジェクトを設置した。

プロジェクト	検討内容
雇用定住促進	小田原の将来を見据えた、住む人にとって魅力のあるまちづくりについての検討
活性化	おだわらの特性を生かした地域経済の活性化策、都市活力の創出策についての検討
都市の顔づくり	うるおいややすらぎの感じられる快適な空間づくりと人々の交流を促進するための交通ネットワークの充実などについての検討
人に優しいまちづくり	すべての人にとって暮らしやすく、多様な人が互いを理解し日常的に交流し得る地域・社会づくり等についての検討
世界城下町サミット	国内外の城下町とまちの抱える諸問題や取組みについて語り合い、活力ある新しい「城下町おだわら」を市民とともに創造する「世界城下町サミット」の開催に向けた

	検討
キャンパスシティ構 想	小田原の持つさまざまな地域資産を生かし、市民の力で、まち全体を学びの場、知的生産の場としていくための施策の検討
ふるさとの原風景再 生	ふるさとの原風景を保全し、活用するための施策の検討
小さな核市街地づく り	駅周辺や商店街などを、その地域ごとの特性を活かし、地域コミュニティの中心として再生するための施策の検討

(2) マネージャー制の導入

プロジェクトそれぞれに、各部局から独立した立場で、自由な発想で事業計画の策定から事業実施まで取組む、成果責任を明確にした専任のマネージャーを配置した。

(3) スタッフの公募

各プロジェクトには、様々な角度から検討をするため、庁内公募により、専門技術や部門の異なる 20～30 代の若手職員を週 2 日程度ほど従事する兼任のスタッフとして配置した。

(4) アドバイザーの委嘱

専門的知識を有する方から助言を受けるため、市民団体代表者や経営者など、3 名のアドバイザーを委嘱した。

(5) マニフェスト事業推進会議

推進本部の下に、全部局長で組織する、マニフェストに位置付けられた事業の推進に向けての課題調整、進捗状況の検証などを行うマニフェスト事業推進会議を設置した。

(6) マニフェスト外部評価委員会の設置

マニフェスト事業についての評価を外部から受けるため、市民や学識経験者をメンバーとするマニフェスト外部評価委員会の設置に向け、検討している。

3. 取組にかかる事業費

おだわらルネッサンス推進本部運営費

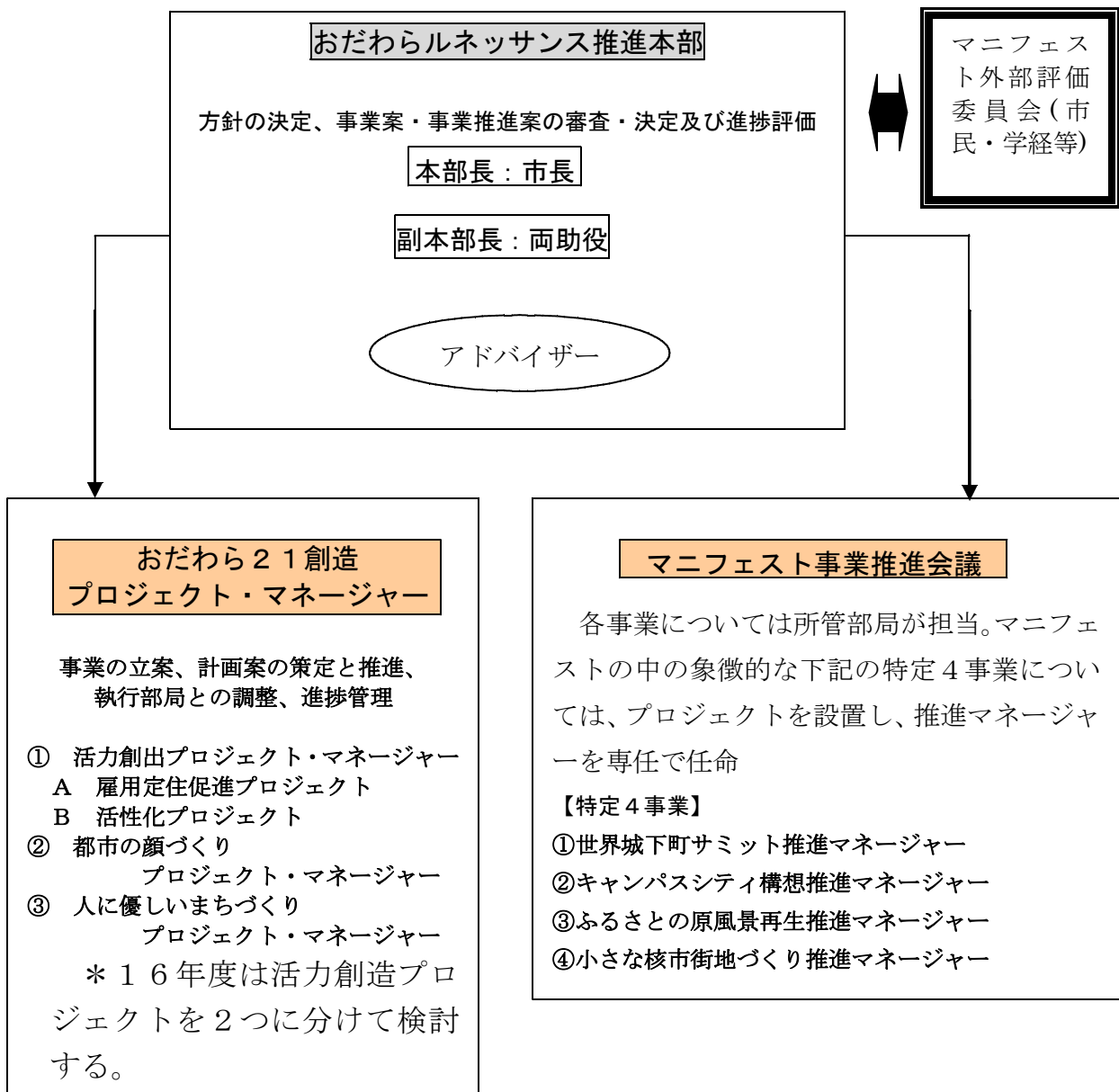
アドバイザー謝礼

100 千円

4. 取組の体制

推進本部の本部長には市長が、副本部長には 2 名の助役が就いており、おだわらルネッサンスに係る方針の決定、各プロジェクトから提案された事業案の審査及び決定を行う。

【全体イメージ図】



5. 取組の成果

各プロジェクトは、精力的に検討を進め、本市の特性の一つになっている新幹線停車駅を持つことを定住促進につなげようとする事業や市民の心に残る風景をまちづくりに役立てようとする事業など、部局横断的な事業の提案を数多く行ない、平成17年度当初予算に、26事業、計75,174千円を計上した。

事業の予算化にあたり、関係所管との調整が必要となったが、新たな視点からの事業提案に触れたことで、職員の意識改革にもつながった。

6. 今後の課題

厳しい財政状況の中、今後の事業展開にあたっては、費用対効果を見極め、適宜事業内容の見直しを図っていく必要がある。